



# かどや通信

第24号

発行日：平成30年1月

発行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

## 子供正月、楽しさ満喫！

新年早々の一月五日に「子供正月くあそび広場インかどや」が開催され、小学生を中心に幼児や父兄等、約三十名が参加した。

これは、かつて正月と言えば家族や親戚、友達等が一堂に会し、かるた取りやゲーム等で楽しい時間を過ごした昔の正月気分を子供たちに味わってもらおうと、企画されたのだ。

当日は、かるた取りやトランプ、福笑い等の正月らしい遊びに加えて、小学四年生以上の希望者にはデジタルカメラで写真を撮り、その写真を使って動画風のアニメーション映像を作るコマ撮り体験教室も開かれた。同教室の指導は鳥羽市地域おこし協力隊員として昨年七月に鳥羽市に移住した映像のプロである佐藤創さんが担当した。子供たちは三チームに分かれて構想を練り、テーマに沿って写真を撮り、作品を完成させた。



一方、お母さんたちとゲームに参加できない幼児たちは、小学生がゲームや体験教室をしている間に、昼食用のちゃんこ鍋



作りに挑戦した。ちゃんこ鍋は、鳥羽市出身の元大相撲力士・琴井村こと井村憲二さんが指導に当たってくれた。まず二度挽きした鳥挽肉に秘伝の隠し味をしのばせた肉団子を作り、白菜、大根、人参、ごぼう等々の大量の野菜をきざんだ後で、庭に準備された二つの大鍋で味噌味と醤油味の鍋を作った。ゲームや体験教室が一段落した子供たちは寒風をもとめせず、庭に飛び出しあつあつの本格的ちゃんこをほおばった。締めにはうどんと雑炊も作られ、全員大満足の様子だった。

食後は、座敷に集合し、コマ撮りアニメーション映像の完成試写会が行われた。作品は一分程度の短いものだったが、完成度が高く、佐藤さんも驚くほどの出来栄であった。

今回の子供



子供正月は試写会で、すべてのプログラムが終了し、子供たちはニコニコ顔でかどやを後にした。清水館長は「人が大勢集まりワイワイと時間を過ごすのどかな正月風景が少なくなってきた。今回の体験が子供たちの正月の思い出として記憶に残ってくれば、うれしい」と話してくれた。

毎年恒例のかるた会百人一首も十四日に行われた。参加者は子どもの頃にかどやでかるたを楽しんだ常連にかるた好きの伊勢市の小学六年生も加わり、静かな中にも得意の札が詠まれると激しい争奪戦が繰り広げられた。一方、お手付きをするとどっと笑い声が溢れ、緊張感と笑いの入り混じった楽しい雰囲気広がった。

かるたが終わると餅入りぜんざいがふるまわれたが、ここには館内の見学者も参加し会話も弾み、かつての正月らしい時が流れた。



コマ撮りアニメ完成試写会にワクワク

## 年末恒例！オルガンと フォークで年忘れ！

十二月のかどや屋下がりコンサートは、毎年恒例となった二つのコンサートで華やかに歌い納めとなった。

### 《チカちゃん、錦を飾る！ 長尾オルガンコンサート》

毎年十二月には長尾オルガンのコンサートが開催されるが、今回は「チカちゃんのクラシックコンサート」と題して、鳥羽市出身のプロ歌手メソソプラノ・田中千佳子さんを迎えて行われた。



わ湖木  
のび  
属の  
わ湖木  
声  
楽アン  
サンブ  
ルメン  
バーと  
して活

田中さんは、京都市立芸術大学大学院を卒業後、滋賀県立芸術劇場ひ

躍。昨年からはフリーとなり、京都や大阪など関西を中心に精力的に活動している。三重県内でも伊勢市等でコンサートを重ねており、「いせ第九コンサート」にも出演してきたが、鳥羽市でのソロコンサートは今回が初めて。地元だけに知人・友人も多く、なんと約九十名がかどやに駆けつけてくれた。

当日は、「聖夜」などクリスマスソング・メドレーに始まり、オペラの曲や賛美歌「アメージング・グレース」、休憩をはさんでスコットランド民謡「アーローリー」やNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」の主題歌「スタンド・アローン」を情緒豊かに歌い上げた。

観客は、田中さんの華やかさのなかに落ち着いた響きのあるメソソプラノの歌声にうっとりとしき入っていた。

伴奏は、長尾オルガンの演奏ではお馴染みの巽耕一さんで、今回は鍵盤数三十九鍵の長尾オルガンに加えて、大正十年代に製造された四十九鍵の西川オルガンも使用。二台の音色の違いも楽しんでいただいた。

### 《今年も浜口バンドで年忘れ》

十二月十七日には、年末恒例となったハマグチバンドによる「年忘れうきつきコンサート」が開催された。

前半は、これも恒例のかどや専属のかどやゼンザースがクリスマスソングをお客様と一緒に熱唱し、クリスマス気分を盛り上げた。後半のハマグチバンドはサンタクロースにちなんだ帽子をかぶって登場し、

マイク真木の「涙君さよなら」や「風」「あの素晴らしい愛をもう一度」等フォーク全盛時代の懐かしい曲をはじめ、NHK連続テレビ小説「わろてんか」の主題歌「明日はどこから」やリーダー・濱口素則さんのオリジナル曲「僕のクリスマス」等、



全十曲を熱演。年末の慌ただしさを忘れさせてくれる楽しいひと時となった。

### 母の愛

「チカちゃんのクラシックコンサート」には、なんと過去最高の約九十名が集まった。

地元出身の歌姫の声を聴こうと、知人友人が駆けつけてくれたからだ。この企画が九月に決まるやいなや、チカちゃんのお母様が動いたのだ。早々とチラシを作り、知人友人親戚筋は元より、様々な場所にチラシを配布する地道なPR活動の積み重ねがあったからだ。

我ら事務局は、この積極的なPR活動に感激したものの「かどやの収容人数を越えたらどうしよう(ワナワナ)」と解決策に知恵を絞った。駐車場問題に着目した清水館長は、近隣の方々の駐車場を当日利用させていただけようお願いに回る等、事務局も万全の態勢で臨んだ。

当日、数名の方にはチカちゃんの姿が見えない部屋で我慢していただいたが、「声かけてもろてよかった！素晴らしかった！」と大満足の様子。これほどの人数を動かした母の愛の大きさに脱帽した。

母の愛といえば、子供正月の企画も小学生の子供を持つ事務局三代目が、子供たちに思い出に残る体験をさせたいという熱き想いの結晶だったのだ。ちゃんこ鍋にまで思いを馳せ、交渉も準備もサポーターの手配までも細やかに采配を振った。

素敵なコンサートや楽しいイベントを支える母たちの愛に感激！

## 手芸好きにはたまらない！ 力作続々！

十二月と一月の展示も力作が続き、連日手芸好きの女性客で賑わっていた。

### 《絶賛！裂き織と刺し子の二人展》

「和布との饗宴」内田倫子・中居正子の二人展が十一月二十九日から十二月二十四日に開催され、完成度の高い作品群が人気を博した。

内田さんの作品は、裂き織で作ったバッグや洋服、敷物、コースター等。中居さんの作品は、和服をリメイクした洋服に刺し子をほどこしたものや、パッチワークで作った洋服にバッグ、吊るし飾り等だ。



内田さんの裂き織には自分で染色した草木染の糸を使っており、さらに織り上げた布を自らバッグに仕上げる一貫したオリエントナル作品である。草木染に

はサンダンやふき、月見草等を使っており、優しく気品ある風合いが魅力だ。

一方、中居さんは手芸が好きで、二十代で和裁を習ったそとだが、洋裁を本格的に始めたのは六十歳の定年退職後だ。和服をワンピースやコート等に仕立て直し、そこに刺し子を加え、強度と品格が格段にアップした作品を作り上げている。仕立て直しだけなら数日で完成するそうだが、細かい刺し子を入れると、ワンピースでも一ヶ月はかかるそうだが、その出来栄えには、目の肥えた見学者たちをも感嘆させていた。また、パッチワークで作った洋服やバッグも素晴らしく、第二十二回インターナショナル・キルトウィーク YOKOHAMA2014 のコンテストのウエア部門ではロングコートが最優秀賞、ショートコートが奨励賞を受賞した。それらの受賞作品も展示されており、見学者のため息を誘っていた。

内田さんと中居さんの接点は、中居さんが刺し子用の糸に、内田さんの草木染の糸を使っているからで「内田さんの優しい色合いが古布にぴったり」なのだという。

二人とも伊勢市在住だが、個展は初めてのこと。両者の素晴らしい作品が、連日見学者に感嘆のため息をつかせていた。

### 《記念の巡回ミニキルト展》

日本キルトアーツ協会（JQA : Japan Quilters Association）

の設立三十周年を記念した「JQA あれから三十年〜ミニキルト展」が一月六日から二十八日まで開催された。

これは、同協会の設立三十周年を記念して、会員が作成した約五十センチ四方のパッチワークキルトを展示するもので、昨年七月の横浜市を皮切りに、一宮市、枚方市、海老名市ですでに開催されており、三重県ではかどやが会場となった。今後各務原市や、久留米市、岡山市で開催予定だ。

JQAの会員は全国で八十九名で、今回は五十八名が出演しており、花や干支、幾何学模様等、バラエティに富んだ作品が並んでいる。見学者からは「こんなに作風の違う作品を、一か所で見られるなんて感激です。すごく参考になりました」等のコメントが多数寄せられた。

ところで、かどやが会場に選ばれたのは、JQA 会員の飯田久美子さん（伊勢市出身で名古屋在住）が平成二十七年にかどやで個展を開いたのがきっかけだ。今



回飯田さんの作品は、ミニキルトを含め七点が展示されている。中には一昨年の伊勢志摩サミットの年に中部国際空港セントレアに展示された大形の力作もあり、見学者を魅了していた。（写真は、アマゾンにイメージした飯田さんの大作）

### 芸術の力

新聞にミニキルト展が紹介された翌日、熟年の女性が一人で見学に来られ、帰り際に目を輝かせながら「来てよかったわ」とこやかに話し出した。長年パッチワークを楽しんできたが、一年前に大病を患い、それ以来、何もする気になれず鬱々としていたという。見かねた友人が今年の年初にキルトの写真を持ってきてくれたから、少しやる気が出てきたそう。その矢先、新聞の記事を見て、久々に外出したところ、素晴らしい展示に出会い、もう一度針を持つと、頑張ってみようという気になったのだという。

病は気からというが、彼女は好きな芸術に触れて、生きる力を取り戻したのだ。彼女の満面の笑顔を見て、「芸術の力って、すごい！いくつになっても情熱を注ぐものがあるって素晴らしい」と、こちらまで力が湧いた。そんなことを感じてもらえる場所にかどやがなれたのもうれしく、会場に選んでくれた飯田さんにも改めて感謝した。

**恒例のしめ縄作りに大奮闘！**

十二月九日には、恒例のしめ縄作りが行われ、ご夫婦一組を含む八名が参加した。

今回もしめ縄作りの達人・湯本武司さん親子が指導にあたり、まずデモンストレーションで一つを完成させた。しめ縄は予想以上に力のいる作業で、二人一組となって作っていく。ほとんどが初対面だが、組になった二人は、お互いに協力しあい、大汗をかきながら、約二時間後には初心者とは思えない見事なしめ縄が完成した。

終了後は、ペアを組んだ相手と談笑し、手作りしめ縄を大切そうに抱えながら、帰っていった。

なお、しめ縄に使った藁は、鳥羽



市教育委員会の野村史隆さんが稲刈りの後の藁をこの日のために提供してくれたものだ。そ



の藁は、使  
いやすくす  
るため、清  
水館長が水  
をかけて一  
晩おいたも  
の。準備に  
も影の力が  
働いている。

**《速報！ かどやが**

**「恋する鳥羽」の舞台！》**

鳥羽市観光協会制作の「恋する鳥羽」(全十話)が現在ZTVで放映中だ。二月中旬放映予定分は、鳥羽なかまちが舞台となり、鳥羽に移住してきた鳥羽市地域おこし協力隊員の佐藤創さんが、主人公の白鳥羽音さんをなかまちに案内するとい



うストーリーで、一月十九日にかどやでも撮影が行われた。インターネットのYouTubeでも視聴可能です。お見逃しなく！

◆◆◆ 貸部屋の案内 ◆◆◆

かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

**かどや保存会 平成29年度会員募集中！**

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで28年度は340名、今年度も1月20日現在で330名の方々が会員登録してくださいました。今後も一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、更にこの輪を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

29年度(H29/4/1～H30/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751  
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713